

## 第6学年「総合的な学習の時間」学習活動案

単元名 We love ○○○○ われらのまちづくりプロジェクト (25時間)

### 1. こんな子ども達だから

本学級の子どもたちは、昨年度、「環境」の視点で、一昨年度、「福祉」の視点で校区を調べる総合的な学習を行っている。繰り返し地域に出かけることで、○○に親しみ、○○の町の課題を自ら発見し、考えようとする意識が少しずつではあるが育ってきている。また、最高学年として廃品回収や祭り・運動会などの地域行事に参加したり、地域のジュニアリーダーとして下級生の世話をしたりと地域の中で活躍している子が多い。

ただ、参加することはあっても、主体的に関わったり、地域の取り組みがどれだけ地域の人々によって支えられているかなどに気付いたりしている子は少ない。さらには、○○の町がよりよいものになるように行われている行事や関わっている人の姿をまちづくり視点で見つめたり、自分も地域の一員としてまちづくりを「自分の課題」としてとらえたりしている子はほとんどいない。

子供たちは、国語科「平和のとりでを築く」において、パネルディスカッションで友だちと考えを交流することによって、考えが深まったり、新しい発見に気付いたりすることができるなどコミュニケーションをすることの楽しさを味わっている。しかし、総合的な学習においては、自分が追究して獲得した学習内容を、総合的に関連させながら考えを深めたり、友だちとの交流によって自らの考えを広げたり深めたりしながら表現力を高めるところまでには至っていない。

### 2. こんな教材で

本単元は、自分たちが住む○○の町を環境や福祉、交通など視点で調べたり、○○の町を住みやすくするために取り組みをしている様々な人達に関わったりする事により、町に親しみ、自分たちの町をより暮らしやすくするためにはどうしたらよいのかと町づくりに対して具体的・現実的に考えさせ、提案・実践させていくのをねらいとしている。

このことは、これまでの生活科や総合的な学習で培った町の人・もの・ことに対する見方・考え方を総合的に発揮し町に愛着を持ち、全力で考え、行動できる子を育てる上でも意義深い。さらに、未来の○○を考えることで地域の一員であることを自覚し、住みよい町づくりを自分の生活と結びつけて考えることが期待される。

まちづくりに携わる人々の活動や、その思い・願いに触れることで、その人々の生き方や考え方、地域のために頑張っているという姿勢を学ぶことができる。最高学年である6年生にとって、「自分も少しでも他に役立つことがしたい」というボランティアの気持ちを育てることができると考える。

### 3. こんな子どもの姿をめざしたい

まちの再調査活動やGTとの出会いから課題意識を持ち、より価値ある課題へと高め追究計画を立てることができる。

○○のまちづくりの取り組みについて自分が設定した課題を解決するために多面的に調査したり、調べたことを分かりやすく表現したりして、主体的に追究することができる。

住み良いまちづくりについて、自分の考えを持ち、友だちとの交流や話し合い活動を通して、考えを深めたり広げたりすることができる。

自分の町や「まちづくり」についての追究を通して、町の良さや素晴らしさに気づき町を大切にしより良くしていこうとする態度を育てる。

【課題設定能力】

【問題解決の能力】

【学び方やものの考え方】

【自己の生き方】

### 4. そのために、こんな方法で

単元にはいる前に朝のスピーチの話題を「○○○○」とし、町に対する意識を高めると共に話題をウェビング図に表し、町を見つめる視点作りしておく。

課題をつかませる前に、環境・福祉・生活・安心、安全・人との交流という5つの視点で町を見つめ、良さや課題を発見する調査活動をさせる。

課題をつかむ段階では、自分達の町の課題を解決するために「まちづくり」について、積極的に活動してある地域のG Tから話を聞く。現地調査のときは、子供の主観に頼るのではなくより多くの人へのインタビュー、落ちているゴミの数、自動車の台数などより具体的なデータを収集するように助言する。「プロジェクト会議」では、国語科で学習したパネルディスカッションを取り入れ、より新しい見方・考え方が持てるようにする。地域のために一生懸命取り組んである人々の姿に学び、自分の生き方に生かせるようにしていきたい。

## 5 . 単元計画

配時	学習活動と内容	教師のかかわりと留意点	評価規準<評価方法>	他教科との関連
	1. ○○校区の移り変わりや単元名について話し合い、○○の町のまちづくりについて関心を持ち、単元全体の見通しを持つことができる。	○○の町の過去50年間に急速に発展してきた事を実感させるために、開校50周年記念誌から、過去(50年前と20年前)と現在の校区の航空写真を準備し、比較させる。50周年記念誌の中から、当時の様子が分かる写真を数枚用意しておく。「We love ○○○○」というキーワードをもとに住みやすい町とはどんな町なのかイメージを持たせる。	過去50年間で○○の町が急速に発展してきたことに気付くことができる。(発言、ノート) 町の様子だけでなく人々の暮らしも豊かになってきたことに気付くことができる。(発言、ノート) 「まちづくり」についてもっと知りたいという意欲を持つことができる。(行動、発言)	写真等、基礎的資料を効果的に活用し、調べることができる。(社会)
	2. いろいろな視点で町を調査し、町の良さや課題を探ることができる。 ・環境の視点 ・福祉の視点 ・交通の視点 ・歴史の視点 ・生活の視点 ・人々の交流の視点	視点を明確にして調査活動に行かせる。 校区地図、デジカメ、バインダーなどの準備を事前にし、住んでいる町内ごとにグルーピングしておく。	自分達の町には色々な良さや課題があることを見つけることができる。(行動、ノート)	インタビューをするために質問を考えたり、相手の話を予想したりすることができる。(国語)
	3. ○○の町の良さ・課題を出し合いながら、「すみよいまち」とはどんな町なのか、自分なりのイメージを持たせる。	校区全体を表した大きな校区地図・朝のスピーチの話題のウエビング図を準備しておく。 視点ごとに色を変えたシールを貼り、よさ・課題を校区地図に書き込ませる。		

びっくり再発見！ ○○のまち！！

4. ○○のまちづくりを推進している地域の方々の話を聞き、課題意識を高めることができる。

5. 再調査の結果(校区地図・ウェビング図)GTの話から、課題を設定することができる。

- ・環境・・・地域の清掃活動、段ボールコンポスト
- ・福祉・・・社会福祉協議会、ふれあいサロン、しいのみ学園
- ・安全・・・○○交番、防犯組合、見回り隊
- ・生活・・・○○商店街、笹原駅、○○駅
- ・人々の交流・・・公民館、子育て連

子供たちが見つけたどの視点にも、地域の人々が積極的に関わり支えてくださっていることに気付かせてもらえるよう事前に打ち合わせをしておく。

教室に掲示している校区地図やウェビング図、自分のファイルを振り返らせながら決定させる。その際、価値ある課題なのか十分検討させておく。地域の「まちづくり」の取り組みや公民館活動等の一覧表も提示し、参考にさせる。

住み良いまちづくりについて地域の方々が関わっていることに気付くことができる。(行動、発言、ノート)

再調査の結果やGTの話から調べたいという課題をもつことができる。(発言、ノート)

集めた情報を取捨選択をしながら、課題作りに生かすことができる。(社会)

### ○○のまち・まちづくり達人(タウンT)にリサーチ

6. 追究計画を立てることができる。

7. まちづくりについて追究することができる。

- ・インタビュー ・フィールドワーク ・写真 ・ビデオ撮影 ・体験活動 ・アンケート調査 等

8. 調べたことをまとめ、発表の準備をする。

9. 調べたことを交流し合う。

課題別にグループを作り、計画を立てさせる。

現地調査をしたり、インタビューしたりと多様な方法で追究するよう助言する。何を追究するのか、何を明らかにするのははっきりさせておく。

誰のために、どんなまちに、どんな事をしているのか分かりやすく伝えるように工夫させる。

**We love ○○○○**というキーワードに着目させながら「みやたけ」のまちに対する人々の思いを考えさせる。

自分が調べたことや友だちの

自分の調べたい課題についてどのように追究したらいいか見通しを持つことができる。

計画の沿って意欲的に調査活動を行い、課題に応じた情報収集活動を行う事ができる。(行動、ノート)

ポートフォリオなどを効果的に活用し収集した情報を整理しまとめたりすることができる。(ノート)

住み良いまちづくりに対する人々の思いに気付くことができる。(発言、様相、ノート)

社会的事象の見学調査(社会)

目的や意図に応じて取材を構成し、具体的な工夫をし、効果的に書く。(国語)

目的や意図に応じて考えたこと伝えたいことを的確に話したり聞いたりする。(国語)

We love OOOO

OOOOまちづくりプロジェクト会議を開こう！！

本時

10. OOOOまちづくりプロジェクト会議を開き、自分の考えを深め、自分でできるまちづくりプロジェクト活動について考える。

11. 自分が考えたプロジェクトについて計画を立てる。

実践 { 課外 }

12. 活動を振り返り、この活動を通して成長した自分に気付くとともに、これからの自分の生き方について考えることができる。

発表を聞いて、自分の考えを明確にしたうえで会議に臨ませる。

身の回りの小さな事から実践していく大切さに気付かせる。

ポートフォリオを振り返らせ、自己評価をさせる。

交流を通して、自分の考えを深め、高める事ができる。(発言、ノート)

身近なことから一つでも、自分から行動に移すことができる。(行動、ノート)

この单元を通して、自分がどのように成長したか振り返ることができる。(ノート)

日時 11月 17 日  
 場所 6年〇組教室  
 指導者 〇〇 〇〇〇

(1) 本時名 「We love 〇〇〇〇 われらのまちづくりプロジェクト! 」(22/25)

(2) めざす子どもの姿  
 「〇〇〇〇」のまちが、住みよい町で有り続けるために、なくてはならないものはなんだろうというテーマについて、自分の考えをもち、パネルディスカッションを通して、深めたり広げたりすることができる。  
 〇〇〇〇まちづくりプロジェクト会議をとおして、住みよい「〇〇〇〇」のまちづくりのために自分にもできることを考えることができる。

(3) 本時指導の考え方  
 これまでに、子供たちは、〇〇の町を 住みよい町だろうかという視点で、町の「人・もの・こと」を見つめ、色々な方法で調査してきている。特に、住みよい「まちづくり」のために頑張っている人々に直接会い、その思いや生き方に触れ、普段当たり前のよう過ごしている〇〇の町のために様々な活動や人の努力があることに気づき、「まちづくり」という視点で自分なりの考えをもっている。また、「〇〇〇〇」の町については、この單元には入る前は「住みよい町と言える」と考えていた子が半数もいなかった。しかし、それぞれの課題別に調査し、まとめ、交流し合った後は、ほとんどの子( 人中 人)が「住みよい町と言える」と答えていた。「住みよい町にしよう」という地域の人々の思いや願い、また、その行動に心を動かされた結果だと言える。中には、「自分たちも一緒に活動したい。」「自分たちができることがあるかもしれない」と地域の「まちづくり」に対する参画意識もすこしづつ、出てきている子どももいる。また、「〇〇〇〇」の町がこれからも住みよい町であってほしいという願いはどの子も強く持っている。  
 そこで、本時では、「これからも〇〇の町が住みよい町で有り続けるために、なくてはならないものは何だろうか。」というテーマで「〇〇〇〇のまちづくりプロジェクト会議」を開き、「まちづくり」に対する子供たちの考えを深め合い、町に対する愛着を高めていきたいと思う。そのために、国語科で学習した、「パネルディスカッション」の形態を取り入れ、それぞれの立場や考えをはっきりさせながら話し合いに取り組みさせていく。そして、どの主張も必要なものであることに気付かせながら、まちづくりの根底にあるのは、まず、町のことが好きで、自分もまちづくりに参加してみようと思うこと、行動することが大切なのだと話し合いをまとめていきたい。

(4) 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援、指導と留意点	評価規準<評価方法>	他教科との関連
<p>1. 今までの活動を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="text-align: center; border: 2px solid black; padding: 10px; background-color: #ffff00;"> <p><b>W e l o v e 〇 〇 〇 〇</b>  <b>〇 〇 〇 〇 ま ち づ く り プ ロ ジ ェ ク ト 会 議 を 開 こ う ! !</b></p> </div> <p>2. それぞれの立場に分かれてパネルディスカッションを行う。  <b>テーマ</b>  <b>これからも「〇〇〇〇」が住みよい町であり続けるために、なくてはならないものは何だろう</b></p> <p>(1) パネラーは、はじめの主張を行い、全体で聞き合う。</p>	<p>活動を振り返ることでテーマに対する意識化を図る。</p> <p>パネラーの主張を整理しながら板書していく。</p>		<p>自分の立場や考えをはっきりさせ、相手によく分かるように</p>

資料などを見せながら、事実や意見を主張する。

(2) パネラーどうして自由討論を行う。

根拠を明らかにしながら、自分の考えを発表する。

友だちの立場や意図を考えながら聞く。

#### 予想される主張

- ・自然
- ・便利さ
- ・安全
- ・お金
- ・人の和・協力
- ・優しさ・ボランティアの心

(3) フロアを交えて自由討論を行う。

パネラーの発表をもとに自分の考えを創り、発表する。

自分が調査した事実や考えを明らかにしながら話し合いに臨む。

3. 話し合った結果を板書をもとに整理しながら、まとめる。

4. 自分でできること、自分のまちづくりプロジェクトについて考える。

6. 本時のまとめを行い、振り返りを書く。

必要に応じて、話し合いの柱を確認する。

教室には今まで子供たちが作成した資料や校区地図、ウェビング図などを掲示しておく。

フロアの発表の時にも、写真や作成した資料、調べた事実などを根拠に詩ながら発表するように助言する。

一つの主張にまとめるのではなく、まちづくりには、どれも大事だが人々の町を愛する気持ちが無くてはならないという方向にまとめていきたい。

身の回りの小さな事から実践していく大切さに気付かせる。

目的や意図に応じて、調べた事実や資料を活用しながら、考えたこと・伝えたいことを的確に話すことができる。(発言内容)

意欲的にパネルディスカッションに臨むことができる。

(発言、様相)  
計画的に話し合い、自分の考えを深めることができる。  
(発言、様相)

これまでの活動を振り返りながら自分にできることを考えることができる。(ノート)

理由や根拠となる具体事例や資料をあげて話すことができる。  
(国語)

相手の立場や意図を考えながら聞くことができる。(国語)

調べた過程や結果を目的に応じて活用し表現することができる。(社会)

自分の立場や考えをはっきりさせ、相手によく分かるように理由や根拠となる具体事例や資料をあげて話すことができる。  
(国語)